

令和5年度 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム
(YOKOHAMA MDA プログラム) 応用基礎レベル」 自己点検・評価報告書

令和6年5月7日
教育推進機構全学教育部会

[1] 授業方法

令和5年度は、理工学部開講の「データサイエンス実践基礎」(春学期オンデマンド)および「AI実践基礎」(秋学期オンデマンド)、全学教育科目の「データサイエンス実践基礎」(秋学期オンデマンド)がそれぞれ新規に開講されるとともに、理工学部開講の認定済既存科目(9科目、5演習)がそれぞれ対面にて実施された。

[2] 履修状況

令和5年度における本プログラムを構成する授業科目(リテラシーレベルの「数理・データサイエンス・AI入門」を除く)の履修状況は、以下の表のとおりである。リテラシーレベル科目も含めた本プログラム対象者のユニークな受講者数は769名であり、その内訳は、文系学部17名(教育学部1名、経済学部7名、経営学部9名)、理工系学部752名(理工学部714名、都市科学部38名)である。令和5年度のリテラシーレベルのユニークな受講者数は372名(うち文系学部26名)であり、目標としていたリテラシーレベル受講者数の60%以上を十分達成している。

※以下の表は各授業科目の自己点検を目的としているため、本プログラムの対象年次(2022年度以降入学生)以外の履修者も含めて集計した。

<データサイエンス実践基礎(全学教育科目)履修者数>

学部名	1年	2年	3年	4年	他	合計
経済				1		1
経営			1	1		2
都科		1	2			3
合計		1	3	2		6

<理工学部教育科目履修者数>

科目名	期間	1年	2年	3年	4年	他	合計
データサイエンス実践基礎	春期(第1,2ターム)	0	164	60	26	0	250
AI実践基礎	秋期(第4,5ターム)	0	147	56	10	0	213
プログラミング基礎	秋期(第4,5ターム)	129	4	12	4	0	149
アルゴリズム	春期(第1,2ターム)	0	104	11	20	0	135
電気数学	春期(第1,2ターム)	128	4	3	1	0	136
電気数学基礎演習	春期(第1,2ターム)	128	0	0	0	0	128
確率・統計基礎	春期(第1,2ターム)	0	95	5	6	0	106
ソフト・コンピューティング	春期(第1,2ターム)	0	0	152	17	0	169
プログラミング演習	春期(第1,2ターム)	0	54	5	2	0	61
プログラミング演習	春期(第1,2ターム)	0	53	7	6	0	66

電子情報システムプログラミング演習	春期集中	0	0	113	8	0	121
データサイエンス	春期（第1,2ターム）	0	0	43	14	1	58
アルゴリズムとデータ構造	春期（第1,2ターム）	0	140	6	5	0	151
プログラミング演習Ⅰ	春期（第1,2ターム）	0	75	5	3	0	83
人工知能	春期（第1,2ターム）	0	0	60	13	0	73

[3] 単位修得状況

令和5年度の単位修得状況は、下表のとおりである。単位修得率は良好であり、高い学修成果が得られていると評価できる。

科目名	秀	優	良	可	不可	合計	単位修得率
合計	352	720	392	233	208	1905	89.1%

（個々の授業科目の成績分布は、学内資料にのみ掲載）

[4] 学生による授業アンケート

授業のアンケート結果は以下のとおりである。アンケートへの回答は任意であるため全員が回答しているわけではないが、回答内容を見る限り、全体的には、対象学問領域への関心も高く、授業内容を理解でき、授業の満足度も高いという結果が得られている。

< 各授業科目の授業アンケート結果 >

【設問】

Q2 授業の履修目標（成績評価の「優」のレベル）に到達するために、意欲的に授業や課題に取り組みましたか。

Q3 授業の到達目標（成績評価の「可」のレベル）に掲げられていた知識や能力が身についたと思いますか。

Q4 授業の内容を理解できたと思いますか。

Q5 授業で対象とする学問領域への興味や関心が喚起されましたか。

Q6 総合的にこの授業に満足しましたか。

【回答の選択肢】

4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない

科目名	回答者数	Q2の平均	Q3の平均	Q4の平均	Q5の平均	Q6の平均
各科目の平均値	595	3.14	3.42	3.17	3.26	3.23

（個々の授業科目の集計結果は、学内資料にのみ掲載）

[5] 令和6年度に向けての計画

令和6年度以降は、全学教育部会、情報戦略推進機構、理工学部の協力を得ながら、教育推進機構の情報教育推進部門が主体となって本プログラムを推進する。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度への申請と、継続的な見直しをはかる。

以上